


■ 内分泌検査

- ① 溶血材料については正確な結果がご報告できない場合があります。
- ② 使用する容器はです。
- ③ セット検査がございます。詳しくは 42、43 ページをご確認ください。
- ④ 内分泌検査の送付方法は冷蔵、冷凍となっています。検査実施が横浜ラボになりますので、検査の品質精度をよりよくするため、採血から検査までの日数がかかる場合は冷凍を推奨いたします。

検査項目	検査材料 必要量	所要 日数	送付 方法	検査方法		検査方法	増加する疾患	減少する疾患
				犬	猫			
犬甲状腺刺激ホルモン (C-TSH)	血清 0.3mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	~ 0.50 ng/mL	/	CLEIA	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症
説明 次ページ「一般的な内分泌疾患と診断基準」参照								
サイロキシン (T4)	血清 0.3mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	0.84 ~ 3.46 μg/dL	0.80 ~ 5.00 μg/dL	CLEIA	甲状腺機能亢進症	甲状腺機能低下症
説明 次ページ「一般的な内分泌疾患と診断基準」参照								
遊離サイロキシン (F-T4)	血清 0.3mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	0.60 ~ 3.20 ng/dL	0.50 ~ 2.60 ng/dL	CLEIA	甲状腺機能亢進症	甲状腺機能低下症
説明 次ページ「一般的な内分泌疾患と診断基準」参照								
コルチゾール (CORT)	血清 0.3mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	1.0 ~ 5.0 μg/dL	1.0 ~ 10.0 μg/dL	CLEIA	クッシング症候群 ストレス	アジソン病
説明 次ページ「一般的な内分泌疾患と診断基準」参照								
犬トリプシン様免疫活性 (C-TLI)	血清 0.3mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	5.4 ~ 32.0 ng/dL	/	CLEIA	急性膵炎 腎不全 栄養不良	膵外分泌不全 (EPI)
説明 トリプシノーゲンは、膵臓に特異的な酵素であり、膵臓が正常な場合において、血中に逸脱するトリプシノーゲンは少量です。								
フルクトサミン (FRA)	血清 0.2mL	5日 以内	冷蔵 冷凍	167 ~ 308 μmol/L	135 ~ 243 μmol/L	ドライケム法	糖尿病	
説明 過去2週間ほどの血糖値の平均を示すとされ、血糖コントロールのパラメーターとして有用です。								
テストステロン	血清 0.3mL	6日 以内	冷蔵 冷凍	*	*	CLIA	精巣・卵巣腫瘍 副腎皮質腫瘍	
説明 雄では大部分が精巣、雌では副腎皮質と卵巣で産生されます。								
エストラジオール (E2)	血清 0.5mL	6日 以内	冷蔵 冷凍	*	*	CLIA		
説明 卵巣から分泌されるほか、副腎皮質・精巣から少量産生されます								
プロゲステロン	血清 0.5mL	6日 以内	冷蔵 冷凍	*	*	CLIA		
説明 一般に黄体ホルモンと呼ばれるステロイドホルモン。雌では卵巣と胎盤から分泌され、黄体機能や妊娠に深くかかわります。								
インシュリン (犬のみ) (IRI)	血清 0.5mL	6日 以内	冷蔵 冷凍	*	/	ECLIA		
エリスロポエチン (EPO)	血清 0.7mL	7日 以内	冷蔵 冷凍	*	*	CLEIA		

* 犬猫の基準値を設定しておりません。予めご了承ください。

検査ご利用に
ついて

病理検査

犬ワフチンセット

犬感染症検査

猫ワフチンセット・
猫感染症健康セット

猫感染症検査

薬物検査

生化学・
内分泌セット検査

生化学検査

内分泌検査

その他の検査

【一般的な内分泌疾患と診断基準】

※確定診断の際には臨床症状や血液検査などを併せてご判断ください。

猫の甲状腺機能亢進症

主な臨床症状	体重減少、多飲・多尿、消化器症状、行動の変化、脱毛、頻脈、呼吸促迫など		
血液検査	T4、FT4		
血液化学検査所見	肝酵素上昇		
診断基準	甲状腺機能亢進症は高齢の猫で見られる内分泌疾患です。		
	病態	T4	FT4
	正常	0.80 ~ 5.00	0.50 ~ 2.60
	グレーゾーン	2.00 ~ 5.00	
	甲状腺機能亢進症	> 5.00	> 2.60
	<ul style="list-style-type: none"> ● FT4 は甲状腺機能亢進症以外の疾患で高値となることがあります。 ● 猫でも Euthyroid Sick Syndrome が見られます (特に慢性腎疾患)。 		

犬の甲状腺機能低下症

主な臨床症状	活動性の低下、無気力、低体温、体重増加、皮膚症状 (脱毛、色素沈着、膿皮症、角化亢進) など			
血液検査	FT4、T4、TSH			
血液化学検査所見	正球性正色素性貧血、ALP 上昇、高コレステロール血症、高 TG 血症			
診断基準	甲状腺機能低下症は犬でよくみられる内分泌疾患の1つで、その大部分は原発性の甲状腺機能低下症と言われています。			
	注) 犬の甲状腺機能低下症の約 10%は T4 に対する自己抗体を持ち、T4 値が上昇することがあります。			
		FT4	T4	TSH
	正常	0.60 ~ 3.20	0.84 ~ 3.46	< 0.50
	原発性甲状腺機能低下症	< 0.60	< 0.84	> 0.50
二次性・三次性甲状腺機能低下症	< 0.60	< 0.84	< 0.50	
Euthyroid Sick Syndrome ※1		< 0.84		
	※1 甲状腺以外の疾患や薬剤投与 (グルココルチコイド、フェノバルビタールなど)により血中甲状腺ホルモン濃度が低下することがあります (特に T4 が影響を受けやすい)。			
	甲状腺ホルモン補充療法のモニタリング			
採血時間	投与後 4 ~ 6 時間			
適切と思われる血中 T4 値	正常上限からわずかに高値			

検査ご利用について
病理検査
犬ワクチンセット
犬感染症検査
猫感染症健康セット・猫ワクチンセット
猫感染症検査
薬物検査
生化学・内分泌セット検査
生化学検査
その他の検査

犬の副腎皮質機能亢進症 (クッシング症候群)
 犬の副腎皮質機能低下症 (アジソン病)

	犬の副腎皮質機能亢進症 (クッシング症候群)	犬の副腎皮質機能低下症 (アジソン病)																																							
主な臨床症状	多飲・多尿、腹部膨満、肝腫大、筋萎縮、皮膚症状 (脱毛、菲薄化、膿皮症、色素沈着、石灰化) など	食欲不振、虚弱、体重減少、嘔吐、下痢、血便、低体温、徐脈など																																							
血液検査	ACTH 刺激試験	ACTH 刺激試験																																							
血液化学検査所見	ALP上昇、高コレステロール血症、高血糖、クレアチニン低値	非再生性貧血、高 K 血症、高 Na 血症																																							
診断基準	<p>注) 血中コルチゾール値はストレス条件下やステロイド剤の投与などにより上昇することがあります。また日内変動が知られておりますので、複数回の検査をされる際は、採血時間帯を統一されることをお勧めします。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ACTH 刺激試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病態</th> <th colspan="2">コルチゾール値</th> </tr> <tr> <th>投与前 (pre)</th> <th>投与 60 分後 (post)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正常</td> <td>1.0 ~ 5.0</td> <td>5.0 ~ 20.0</td> </tr> <tr> <td>副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)</td> <td>1.0 ~ 5.0</td> <td>> 25.0</td> </tr> <tr> <td>グレーゾーン</td> <td></td> <td>20.0 ~ 25.0</td> </tr> <tr> <td>副腎皮質機能低下症(アジソン病)、医原性クッシング</td> <td>< 5.0</td> <td>< 5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>血中コルチゾール値は ACTH 投与後 30 ~ 90 分で最高値となります。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>低用量デキサメサゾン抑制試験(LDDST)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病態</th> <th colspan="2">コルチゾール値</th> </tr> <tr> <th>4 時間後</th> <th>8 時間後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正常</td> <td>抑制される</td> <td>抑制される</td> </tr> <tr> <td>副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)</td> <td>抑制されない</td> <td>抑制されない</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>高用量デキサメサゾン抑制試験 (HDDST)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病態</th> <th colspan="2">コルチゾール値</th> </tr> <tr> <th>4 時間後</th> <th>8 時間後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下垂体依存性副腎皮質機能亢進症(PDH)</td> <td>抑制される</td> <td>抑制される</td> </tr> <tr> <td>副腎腫瘍(AT)</td> <td>抑制されない</td> <td>抑制されない</td> </tr> </tbody> </table> <p>※投与後のコルチゾール値が投与前のコルチゾール値の 50%以下の場合、“抑制された” と判断。</p> </div>		病態	コルチゾール値		投与前 (pre)	投与 60 分後 (post)	正常	1.0 ~ 5.0	5.0 ~ 20.0	副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)	1.0 ~ 5.0	> 25.0	グレーゾーン		20.0 ~ 25.0	副腎皮質機能低下症(アジソン病)、医原性クッシング	< 5.0	< 5.0	病態	コルチゾール値		4 時間後	8 時間後	正常	抑制される	抑制される	副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)	抑制されない	抑制されない	病態	コルチゾール値		4 時間後	8 時間後	下垂体依存性副腎皮質機能亢進症(PDH)	抑制される	抑制される	副腎腫瘍(AT)	抑制されない	抑制されない
病態	コルチゾール値																																								
	投与前 (pre)	投与 60 分後 (post)																																							
正常	1.0 ~ 5.0	5.0 ~ 20.0																																							
副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)	1.0 ~ 5.0	> 25.0																																							
グレーゾーン		20.0 ~ 25.0																																							
副腎皮質機能低下症(アジソン病)、医原性クッシング	< 5.0	< 5.0																																							
病態	コルチゾール値																																								
	4 時間後	8 時間後																																							
正常	抑制される	抑制される																																							
副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)	抑制されない	抑制されない																																							
病態	コルチゾール値																																								
	4 時間後	8 時間後																																							
下垂体依存性副腎皮質機能亢進症(PDH)	抑制される	抑制される																																							
副腎腫瘍(AT)	抑制されない	抑制されない																																							

検査ご利用について

病理検査

犬ワフチンセット

犬感染症検査

猫ワフチンセット・猫感染症健康セット

猫感染症検査

薬物検査

生化学・内分泌セット検査

生化学検査

内分泌検査

その他の検査